

21PO-am412

授業用冊子の作成とその評価

○山崎 未稀¹, 池田 義明¹ (¹金城学院大薬)

【目的】薬学部では、4年次までに化学、生物、機能形態、薬理、薬剤、薬物治療等の薬剤師として必要な知識を学習するが、これらの内容が総合して臨床現場に役立つことを実感するのは5年次の実務実習であることが少なくない。本研究では、実務実習の前にこれまでに学習した科目の内容を繋げ、より理解を深めてから実務実習に臨むようにするための冊子を作成した。

【方法】冊子の内容は、従来の事前実習の授業プリントをベースとし、4年次までの科目に関連する内容をピックアップして追記した。また、書き込んで使用できるテキスト形式、2段組構成で余白の確保、授業全体が想像できるように目次と見出しをつけるなどの工夫を行い、My ISBN（書籍自己出版サービス）で製本した。金城学院大学薬学部4年生(n=149)を対象とし、冊子を使用した授業の前後でプレ・ポストテストを行い、理解度の客観的評価とした。また、授業後に冊子の構成や内容に関するアンケート調査を行った。なお、本研究で作成した冊子は担当教員に協力を得て、4年次後期の事前学習で使用した。

【結果】授業後のポストテストの平均点数が上昇した。アンケート項目の文字の大きさ、余白の広さ、図や表の数はいずれも「丁度良い」と回答した学生の割合が高かった。低学年の学習が大切であると強く感じる学生の割合は8割を超えた。低学年の内容と関連資料を記載した項目が「分かりやすい」との声が多かった。

【考察】この冊子を用いた授業は、学生の理解度の向上に関与したと考えられる。また、学生目線を加えた冊子の作成は、各教員から学ぶ科目の内容を関連付けることができるため有用性が高いと考える。アンケート結果を参考にして冊子内容の修正を行い、今後も継続した見直しが必要である。